

令和3年度 広島自然保育推進事業報告書

社会福祉法人小鳩会 たんぼぼ保育園

【たんぼぼの自然保育～太陽と風と大地のなかで、大きくもっと大きく！～】

当園は、0歳児から5歳児まで、年間を通して自然との関わりを重視して、保育内容を組み立ててきました。小さい時から水や泥とかかかって遊び、雨の日以外は園外保育として近くの野山の散歩を日課としてきました。畑を借りて園児が自分で野菜の栽培に取り組み、収穫物を使ってクッキングも楽しんできました。

はる： 散歩・野草採り



近くの野山を散歩し、ノビルやつくし・ワラビを採取してんぷらやお団子、お好み焼きをホットプレートで、やけどに注意しながら料理して食べることに挑戦しています。

その取り組みで、子どもたちは食べることのできる植物の名前をよく知っています。また、アクの強い野草も食べるようになり、多彩な野菜も好き嫌いなく食べることが出来るようになってゆきます。春は、子どもたちも、野原の植物たちものびやかに生活する季節です。

なつ： 水遊び、フール開き、海合宿

各年齢で水と親しみ、毎日プール遊びをしています。プールは6月中旬の園庭整備の時、お父さんたちの力で、組み立ててもらいます。プール開きから、毎日元気いっぱいの歓声がぶーるから園庭に響き渡ります。年長（らいおん）組は、プール遊びの延長で海合宿に取り組み、海の大きさや海水での泳ぎの楽しさと同時に、水流の怖さも学習します。



あき： 野菜づくり・調理



借り上げている畑や、園庭の隅に作った畑に、野菜を栽培しています。ラディッシュ・白菜・春菊・チュウゴク菜・人参などを栽培し、収穫したものを自分たちで調理して食べています。普段は苦手な野菜でも、自分たちで育てた野菜はパクパクおいしそうに食べることが出来て、これらの経験をきっかけにして、嫌いだった野菜も食べることが出来るようになることも多いです。

ふゆ：

野山の散歩で竹を切り出し、薪を集めて「とんどまつり」を行いました。各家庭から持ち寄った鏡餅、めや一年間使ったお守りやお札、いろいろなものに感謝をして燃やします。

燃え上がる「とんど」に歓声を上げて、さらに今年一年間の健康を祈願してお餅を焼き、みんなで食べることで、伝統行事を伝承します。



小さなあかちゃんから年兆時まで、自然の中でたっぷりと遊ぶことを遠し、五感を鋭敏に育み身体機能を向上させ、感性豊かなに成長してゆきます。この豊かな感性が周囲の環境に反応して理性的な判断が出来るようになります。この感性と理性の交互作用によって、次々と関わる自然と世界が広がり、成長に繋がります。

現代の子どもたちは、人工的な環境に囲まれ、デジタル機器からの刺激と始終接していますが、変幻自在の自然ほど刺激的なものはありません。また、人間も自然の一部であることもこれらの遊びや取り組みから体で理解できるようになります。

でこぼこ道を通して、山野の斜面で遊びまわることで、足裏や体幹への多様な刺激を受け止めその変化に対応できる機敏でしなやかな体と運動能力を育てます。

これからも、安全性を確保しつつ内容の検討・検証を通して、さらなる自然保育の発展に取り組んでゆきます。